

卒業を前に皆さんお忙しくしていることと思います。

東京はここ数日で暖かくなり、
スギ花粉が一気にピークを迎えたとのニュース。
皆様のところはいかがでしょう。

◆ 第38回 留学生日本語弁論大会を大阪で開催！

本協会主催の「第38回全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会」が2月10日に開催されました。大阪 YMCA 国際文化センターに全国から15校の代表が集まり熱の入ったスピーチを披露し、多くの応援の皆さんとともに会場は大いに盛り上がりました。発表者の皆さん、素晴らしいスピーチを本当にありがとうございました。

はじめは本大会の実行委員長を務めた**平岡 憲人 理事**（清風情報工科学院）の挨拶でした。「留学生の皆さんが日本でどんなことを感じて、どんな希望をもって勉強に励んでいるのか、そしてどう活躍していこうと思っ
ているのか。これからそんなことが聞けるのではないかと期待しています。ぜひとも頑張ってください。」という発表者へのエールで大会はスタートしました。



平岡憲人 大会実行委員長

続いて、ご後援とご協賛の紹介が司会の二人からありました。以下の団体、企業の皆様にご協力いただきましたこと、この場を借りて、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

- ご後援** 文部科学省
日本私立大学協会
全国専修学校各種学校総連合会
（一社）大阪府専修学校各種学校連合会
（一財）日本語教育振興協会
（公社）日本語教育学会
- ご協賛** （株）東京教育公論
（株）凡人社
（株）ライセンスアカデミー

ナ ム ス ラ イ

◆ 文部科学大臣賞は モンゴルのNAMSRAI ガ ン チ メ グ GANCHIMEGさん (専門学校アジア・アフリカ語学院)

最も優れたスピーチに贈られる**文部科学大臣賞**は、専門学校アジア・アフリカ語学院のNAMSRAI GANCHIMEGさんが見事に受賞しました。おめでとうございます！



「バナナ」(要旨)

みなさんは、自分の人生を何かに例えたことがありますか。

私は留学生として日本に来ました。でも、言葉が分からず、会話にも入れず、孤独を感じていました。

失敗しても誰からも叱られない静けさが一番つらく、「できていない自分」だけが、はっきり残りました。それでもあきらめずに学校へ通い続けました。

ある日、スーパーで手に取った青いバナナを見て、今の自分に似ていると思いました。まだ青くて硬く、すぐには甘くならないバナナ。でもそれは未熟なのではなく、成長の途中であり、人もバナナのように、時間をかけて少しずつ変わっていくのだと気づきました。

それからは他人ではなく、昨日の自分と比べるようになりました。今も完璧ではありませんが、青から黄色に色づいてきたと感じます。もし結果が出ずに苦しんでいる人がいたら、「あなたは、ちゃんと熟している途中だ」と伝えたいです。

少しずつ成長していく自分をバナナに例えたスピーチに、多くの方が「なるほど」と頷いたことでしょう。

ウ ィ ン ア ン

◆ 外務大臣賞は ミャンマーのWIN AUNGさん (外語ビジネス専門学校) が受賞！

外務大臣賞は、国際的な内容や自国と日本の発展に寄与する内容のスピーチで最も優れたものに贈られます。母国で日本語を教えた経験を持ちながら、さらに日本語を学び理解を深めようとするお人柄にも共感しました。



「仕事が教えてくれた日本語」(要旨)

「こんな簡単なこと分からねえの?」とお客様に怒鳴られて何も言えず、後で先輩に謝り方を教えてもらった時、お客様の怒りを受け止める日本語があると気付きました。

また日本に来る前、私はミャンマーで親を手伝いながら日本語を勉強し、その後で日本語を教えていました。ミャンマーには日本を目指す日本語学習者が数多くいます。私の日本語は完璧ではありませんが、学生たちは私の言葉を一生懸命に理解しようとしてくれました。学生たちに「日本語、楽しい」と言われた時、完璧な言葉よりも伝えたい気持ちが大切だと分かりました。

日本でのアルバイト経験も、ミャンマーでの日本語教師経験も、日本語は心を伝えるものだとして教えてくれます。仕事で教えてくれた日本語は教科書には載っていませんが、私を支えてくれています。そして私はこれからも学び続けていきます。

◆ ラ フ オ レ ス ト ジ ョ ナ サ ン 会長賞はアメリカの **LAFORREST JONATHAN** ル イ ス **LOUIS**さん (国際アート&デザイン大学校) の手に!

この大会で最も歴史のある賞がこの**会長賞**です。

「猫とは、何でしょうか」(要旨)

私たちは同じ言葉を聞いても、同じイメージを共有しているとは限りません。「猫」と聞いても人によって思い浮かべる姿が違うように、会議で同意したはずの内容が、参加者ごとに別の解釈になることもあります。

また、こちらは親切のつもりでも相手には迷惑だと感じられる場合もあります。背景となる経験が異なれば、同じ言葉や行動でも受け取り方が変わるからです。

こうした小さなズレは、ときに怒りや対立につながります。しかし、相手がどんな経験からその言葉を使ったのか想像できれば、すれ違いは減るはずで、完璧に分かり合えなくても、「分かろうとする姿勢」は相手を尊重する強いメッセージになります。私はこれから、言葉に違和感を覚えたときこそ、その裏にある相手の経験を想像したいと思います。そして、自分に大切なものがあるように、相手にも大切にしている価値があることを忘れず、人と向き合っていきたいと考えています。



文部科学大臣賞 「バナナ」 ^{ナムスライ ガンチメグ} NAMSRAI GANCHIMEG (モンゴル)
専門学校アジア・アフリカ語学院

外務大臣賞 「仕事が教えてくれた日本語」 ^{ウィン アウン} WIN AUNG (ミャンマー)
外語ビジネス専門学校

会長賞 「猫とは、何でしょうか」 ^{ラフォレスト ジョナサン ルイス} LAFOREST JONATHAN LOUIS (アメリカ)
国際アート&デザイン大学校



優秀賞 3名、審査員特別賞 2名をご紹介します。



優秀賞

「勉強とは間違えることだ」 ^{マンシュル シャーラン} MANSHUR SYAHLAN (インドネシア)
文化外国語専門学校

「明日が来れば」 ^{マタ ロベス ダニエル アルフォンソ} MATA LOPEZ DANIEL ALFONSO
(メキシコ) 大阪 YWCA 専門学校

「誰かの光に」 ^{チョウ カテイ} 張 家禎 (台湾)
関西外語専門学校



審査員特別賞

「諦めるのも勇気がいる」 ^{ス ミヤットウン} HSU MYAT HTUN (ミャンマー)
平成医療学園専門学校

「自分らしく」 ^{フウェイ フウェイ ナイン} PHWAY PHWAY NAING (ミャンマー)
麻生外語観光&ブライダル専門学校



上記以外の皆さんには、「奨励賞」として賞状を贈呈いたしました。メディカルエステ専門学校の^{リンブ シュリジャナ}LIMBU SHRIJANAさんが代表で奨励賞の賞状を受け取りました。



奨励賞

「目」 ^{リンブ シュリジャナ}LIMBU SHRIJANA (ネパール)
メディカルエステ専門学校



「光と影」 ^{ラパイ トウサン}LAHPAI HTU SAN (ミャンマー)
専門学校中央情報大学院



「頑張ります」 ^{ペリー エリサ スイモンス}PERRY ELISE SIMMONS (アメリカ)
福岡外語専門学校



「人間の繋がりを壊す存在」 ^{グエン ゴック フエン}NGUYEN NGOC HUYEN (ベトナム)
大阪バイオメディカル専門学校



「正しい日本語が正解じゃない」 ^{サイ カンケン}蔡 函軒 (台湾)
ECC 国際外語専門学校



「黄金の継ぎ目」 ^{ダン ホアン ラム}DANG HOANG LAM (ベトナム)
清風情報工科学院



「何者か」 ^{シュキッド ララ マリエ}SHKIDT LARA MARIE (アメリカ)
横浜デザイン学院



休憩をはさんで、15名がスピーチを披露しましたが、どれも聞きごたえたっぷり。思い出し、もう一度拍手を送りたくくなります。

長時間にわたる審査をご担当してくださったのはこちらの5名の皆さんです。

審査員の先生方

○文部科学省 総合教育政策局 日本語教育課長 **降旗 友宏** 先生

○独立行政法人国際交流基金 関西国際センター

日本語教育専門員 主任 **熊野 七絵** 先生

○立命館大学 法学部 教授 **遠山 千佳** 先生

○関西学院大学 神学部 教授 **浅野 淳博** 先生

○株式会社凡人社 代表取締役 **田中 美加** 先生



審査員の先生方からのご感想を簡単にご紹介します。



文部科学省日本語教育課長の **降旗 友宏** 先生は「練習の成果を発揮した素晴らしいスピーチに感動しました。発表者の皆さんは家族や先生方に感謝していただきたいですし、私もそういった方々に感謝したいと思います。今後も日本語を学び続けて夢や目標をかなえてほしいです」と発表者の皆さんの今後にも期待を寄せるお話でした。

国際交流基金の **熊野 七絵** 先生は「皆さんが具体的にエピソードを交えながら話しているのが印象的でした。日本で気づかされた生きていく上での大切なことがメッセージとしてそれぞれのスピーチに込められていて感動しました。」と心を動かされた要因についてお話してくださいました。



立命館大学の **遠山 千佳** 先生は「しっかり練習していることが伝わってきました。そして、皆さんのスピーチに心を動かされ、私もそうだったなど共感する内容もたくさんありました。発表者の皆さんを見守っていた友達や先生方との結びつきも強かったんだろうと感じる機会でもありました」と学校、クラスの皆さんにも想いを寄せるお言葉でした。

関西学院大学の 浅野 淳博 先生は「皆さんに『おめでとう』と伝えたいです。というのは、この難解な言語をここまで習得し、面倒くさい文化にここまで慣れてくれたということ、そのためにとても苦勞を重ねてきたことをスピーチを聞いて感じたからです。そして私たちが心を揺さぶられたということに自信を持ってほしいです」と温かい言葉で感想を語ってくださいました。



株式会社凡人社の 田中 美加 先生は「皆さんのスピーチを聞いていると思いやりの輪っかを感じます。皆さんが日本にいるのは誰かの思いやりのおかげかもしれないし、皆さんが誰かを思いやった結果だったかもしれません。国際社会もそのようにうまくいってくれるといいな、と願ってやみません。皆さんのスピーチが聞けて幸せな一日でした」と優しさあふれる言葉で審査員の感想をしめてくださいました。

審査員の先生方には、甲乙つけがたいスピーチを審査するという大変なお仕事を長時間にわたって担当していただきました。本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

大会を支えてくれた司会の ^{リク}陸 ^{エキ}奕さんと ^{ソウ}曹 ^{ジャクカン}若 菡さん（清風情報工科学院）にもお礼をお伝えします。ありがとうございました。

また平岡先生以下の実行委員の皆様もご協力ありがとうございました。



<日本語弁論大会実行委員会>

委員長 平岡 憲人（清風情報工科学院）

委員 渡邊 隆行（清風情報工科学院）

立本 奈穂（清風情報工科学院）

阪中 友浩（清風情報工科学院）

吉年 唯音（大阪YWCA 専門学校）

柴田 栄子（関西外語専門学校）

小田 有貴子（ECC 国際外語専門学校）

※敬称略

YouTube 配信もなんとか行うことができ、ほっとしております。「リアルタイムで大会の雰囲気がかめたので、次回はぜひ参加したい」といったお声も寄せられました。



今回も多くの皆様のご協力とご支援のおかげで大会を無事に終えることができました。至らぬ点多々あったと思いますが、事務局としては大会が終わりほっとしております。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

2026年3月3日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当